

令和元年12月20日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

総務文教常任委員会委員長 東口 隆弘
外5名

議員派遣結果報告書

令和元年9月26日に決定された議員派遣について、次のとおり報告します。

記

- 1 派遣名 総務文教常任委員会先進地視察調査
- 2 目的 委員会が所管する事項に関する先進地の取組の調査・研修のため。
- 3 派遣場所 岩見沢市、株式会社HARP（札幌市）、北海道博物館（札幌市）
- 4 派遣期間 令和元年10月29日～30日（2日間）
- 5 派遣議員 東口隆弘、田口廣之、藤谷謹至、小島智恵、小川純文、中橋友子（以上6名）

6 派遣内容

（1）岩見沢市【10/29（火）】

テーマ：「小中学校の適正配置に関する基本計画について」

対応者 岩見沢市教育委員会教育部学校教育課長 戸沼貴志氏
岩見沢市教育委員会教育部教育施設課長 是廣敏明氏

視察目的 学校施設長寿命化計画と小中学校の適正配置の経緯と状況について調査する。

視察内容 平成18年3月、岩見沢市、栗沢町、北村との市町村合併により、小学校15校、中学校10校の25校体制となった。児童生徒の減少により、学校の小規模化が進み、教育環境への影響が課題となり、望ましい教育環境の構築のために具体的な検討をはじめた。現在2度目の適正配置計画策定に向けて通学区域審議会において審議を継続中である。

学校の適正規模は、小学校12学級以上、中学校6学級以上、1学級の児童生徒数18人以上とし、通学距離、時間、小中学校の通学区域の整合性など地域との関わりや地域性を十分に考慮し、保護者や地域住民と話し合いを行いながら総合的に検討を行うとしている。

学校施設長寿命化計画は、現在策定中で、計画期間は40年、5年ごと又は適正配置計画査定時に見直すとしている。適正配置の対象は、小学校5校、中学校4校の計9校。

所 感 上位計画である公共施設等総合管理計画、適正配置計画との整合性により総合的に検討を行う方針であるとしている。岩見沢市における、適正配置と学校施設長寿命化計画は、地域との関わりや地域性、保護者や地域住民と話し合いのもと検討され、小中学校の適正配置と長寿命化計画は切り離せない課題であると感じ、本町においても参考になるものであった。

(2) 株式会社HARP（札幌市）【10/30（水）】

テーマ：「自治体における共同利用型 RPA の実証実験について」

対 応 者 (株)HARP 常務取締役(プロジェクト推進部長) 本多康幸氏
NTTアドバンステクノロジー(株)
北海道支店長 小田 実氏

視察目的 自治体が共同利用するRPA・AI-OCR実証実験などの取り組みについて調査する。

視察内容 共同利用型 RPA 実証実験は、(株)HARP、NTTアドバンステクノロジー、アライズイノベーション(株)、(株)HBA、NTT 東日本の5社が共同で、2018年10月から2019年3月までの間で、北海道と函館市、滝川市、富良野市、登別市、音更町、釧路町、弟子屈町、占冠村の9自治体の協力で、自治体が共通的に実施している定型的な4業務を対象として、共同利用型 RPA(ロボテック・プロセスオートメーション)と AI-OCR を用いた業務効率化の可能性の検証を行ったものであり、導入後の想定効果は、削減率15%~97%と効率化が可能となるものであった。

所 感 事務作業にICT技術を活用するためには、業務の標準化、共通化がなど課題はあるものの、将来的には人口減少、労働力不足などの問題から、自治体行政においても今後必要に迫られる転換期がくるのではないかと考える。

(3) 北海道博物館（札幌市）【10/30（水）】

テーマ：「アイヌ文化の展示について」

対 応 者 北海道博物館学芸副館長 小川正人氏

視察目的 北海道博物館「第2テーマ アイヌ文化の世界」の展示及

び収蔵について調査する。

視察内容 北海道開拓記念館は、2015年に北海道の自然・歴史・文化を展示する総合博物館「北海道博物館」としてリニューアルした。アイヌ文化についても「北海道立アイヌ民族文化研究センター」を組み込み、総合展示室の第2テーマを「アイヌ文化の世界」とし、アイヌ民族文化センターとの統合により、アイヌに関する資料が豊富に展示されている。

復元した家屋、生活や儀式の道具とともに、アイヌ民族の暮らしや文化を理解しやすいよう、家族の物語形式で展示するなどの工夫がされていた。

収蔵庫は、前室を備え、大小5室の三層構造で、湿度（40～60%程度）、温度（17、18度～25度程度）が管理された24時間空調管理とあわせて明確な入室管理で規制されていた。

持ち込まれる資料も多いことから、北海道に関わるものを基本とする収集の基準が定められていた。

所 感 老朽化が進む本町の蝦夷文化考古館は、展示や建物そのものが価値があること、また、施設が国道に接している好条件が整っているとの指摘もあり、施設整備やそのあり方について、国立アイヌ民族博物館や北海道博物館をはじめとする専門職員からの意見も参考に、早急に対応する必要があると感じた。

(1) 岩見沢市 (10/29)



(2) (株)HARP (10/30)



(3) 北海道博物館 (10/30)

